

2016年（平成28年）

5月2日（月曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

4/14~4/20のNYMEX・WTIIは、4か国による原油市況対策の会合は失敗に終わったものの、クウェート石油労働者のストライキなどにより前々週並みの39~42ドルで推移した。

4月21日は、前日の値上がりの反動とドル高の進行により反落した。この日から中心限月となった6月限の終値は、前日比1.00ドル安の43.18ドルとなった。

週末22日は、米国内の好調なガソリン消費などから原油相場に底入れ感が出始めリスク回避の姿勢が後退、続伸した。6月限は、前日比0.55ドル高の43.73ドルで終了した。

週明け25日は、エネルギー情報会社が、WTII原油の集積地クッシングでの在庫が増加していると報じたことから反落した。6月限の終値は、前日比1.09ドル安の42.64ドルとなった。

26日は、ドル安の進行、ガソリンの値上がりなどから反発した。6月限の終値は、前日比1.40ドル高の44.04ドルと5ヵ月半振りの高値だった。

27日は、ドル安の進行、FOMC(連邦準備制度理事会)が6月の利上げは回避したことなどから続伸した。6月限の終値は、前日比1.29ドル高の45.33ドルだった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(6月渡し)は、前週は37~40ドルで推移した。21日は42.00ドル、22日は41.30ドル、週明け25日は41.00ドル、26日は40.50ドルと小幅な値下がりが続いた。27日は欧米市場の値上がりを受け42.40ドルだった。

為替は、前週は108~109円台でほぼ横ばいだった。21日は109.73円、22日は109.43円、週明け25日は111.41円、26

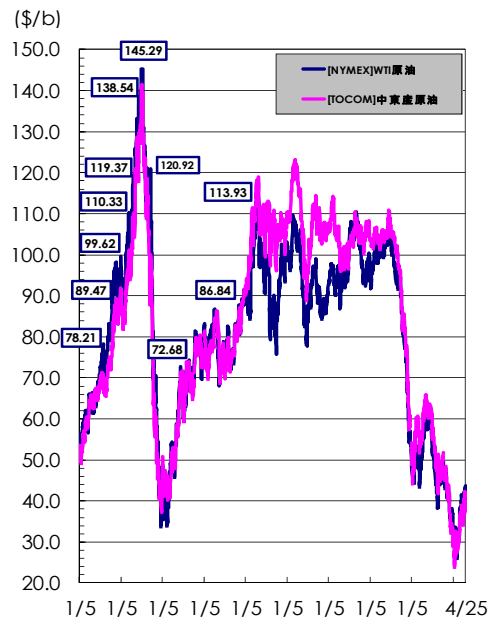
日は110.97円で円高に転じた。27日は再び円安で111.28円。

財務省が27日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、4月上旬の原油輸入平均CIF価格は、25,390円/klとなり、前旬を1,845円上回った。ドル建てでは35.83ドルで前旬比2.73ドル高。為替レートは1ドル/112.68円。

主要元売会社の5月第1週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから2.0円の値上げだった。原油は値上がりし、為替も円安で、原油コストは値上がりした。

そのような中で、4月25日時点の小売価格は、ガソリンが0.5円値上がりの117.1円、軽油は0.1円値上がりの99.5円、灯油は横ばいの61.9円となった。ガソリンは7週連続の値上がり、軽油は6週連続の値上がり。この週の原油コストは値上がり、元売りの卸価格も値上がりで、35府県で値上がり、2府県で横ばい、10都道県で値下がりがした。

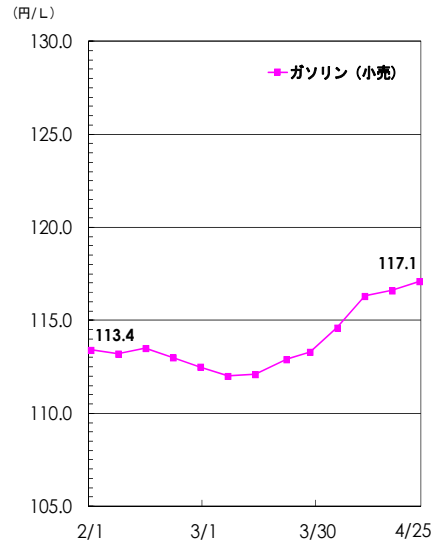
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/17 ~ 4/23	3,842 ▲140	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	90.5 ▲3.3	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	4/23	14,322 ▼-766	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	4/25	41.12 ▲3.70	▼-22.1
	WTII原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	4/25	42.64 ▲2.86	▼-14.4
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	4月上旬	35.83 ▲2.73	▼-20.34
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	25,390 ▲1,845	▼-16,972
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	112.68 ▲0.41	▲7.22
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/25	112.41 ▼-3.40	▲7.52



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/17 ~ 4/23	1,003 ▼ -32	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	962 ▲ 74	▲ -	
	輸出	"	40 ▼ -15	▼ -	
	在庫	4/23	1,846 ▲ 1	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/19 ~ 4/25	39.5 ▲ 0.3	▼ -19.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/19 ~ 4/25	42.3 ▲ 1.3	▼ -19.4
		(TOCOM/中部)	4/25	41.5 ▲ 3.0	▼ -20.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/25	117.1 ▲ 0.5	▼ -22.8	

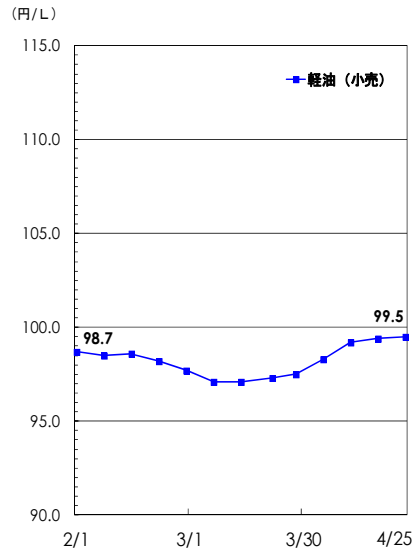
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

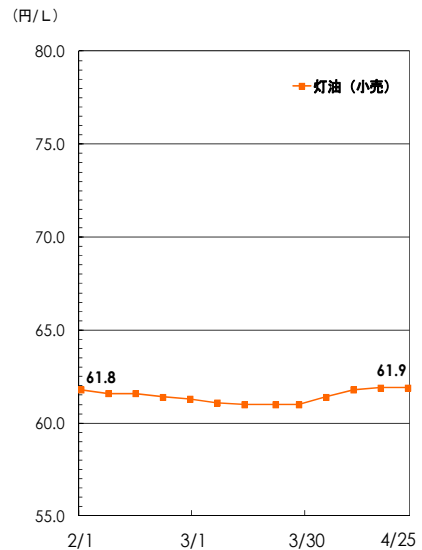
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/17 ~ 4/23	742 ▼ -61	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	592 ▲ 8	▲ -	
	輸出	"	185 ▲ 25	▼ -	
	在庫	4/23	1,426 ▼ -35	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/19 ~ 4/25	36.5 ▼ -0.1	▼ -18.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/19 ~ 4/25	36.4 ▲ 1.6	▼ -21.6
		(TOCOM/中部)	4/25	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/25	99.5 ▲ 0.1	▼ -19.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/17 ~ 4/23	253 ▲ 37	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	217 ▼ -6	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	4/23	1,204 ▲ 37	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/19 ~ 4/25	34.9 ▼ -0.1	▼ -21.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/19 ~ 4/25	36.2 ▲ 1.5	▼ -21.8
		(TOCOM/中部)	4/25	35.4 ▲ 3.1	▼ -23.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/25	61.9 ➡ 0.0	▼ -22.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

27日のNYMEX市場のWTI原油は、ドル安の進行とFOMCが6月の利上げを回避する姿勢を見せたことから続伸した。

EIAが発表した週間石油統計は、原油在庫が事前予想(240万バレル増)を下回る200万バレル増だったが、在庫水準は5億4,060万バレルと過去最高だったことから市場の評価は低かった。これにより朝方は45ドル台を記録したものの、EIAの発表により一時は前日を下回った。しかしその後のFOMCの結果などから値上がりに転じ、結局昨年11月

以来半年振りの高値となった。

6月限の終値は、前日比1.29ドル高の1バレル45.33ドル、7月限の終値は、前日比1.31ドル高の1バレル46.20ドルだった。

EIAによると、4月25日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比2.5セント値上りの1ガロン2.162ドル(64.1円/ℓ)となった。ディーゼルは3.3セント値上りの2.198ドル(65.2円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは3週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、4月17日～23日に休止したトッパー能力は、9.2万バレル/日と先週から12.8万バレル/日の減少。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は384.2万kl、前週に比べ14.0万kl増。前年に対しては9.5万klの増加。トッパー稼働率は90.5%と前週に対しては3.3ポイントの増加、前年に対しては4.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油とC重油のみが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.1%減、ジェット/20.3%減、灯油/17.0%増、軽油/7.6%減、A重油/15.7%減、C重油/0.1%増。今週のC重油の輸入は2.8万kl(前週比7.4万kl減)。軽油の輸出は18.5万kl(前週比2.5万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、軽油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、ジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。震災により熊本県内の一部SSでは営業に支障があったものの、ガソリンで96.2万kl(対前週8.4%増)と3週振りに前年越えとなったが、3週連続で100万kl台を切った。

ジェット7.5万kl(対前週10.7%減)、灯油21.7万kl(対前週2.8%減)、軽油59.2万kl(対前週1.5%増)、A重油22.0万kl(対前週9.4%減)、C重油26.3万kl(対前週10.5%減)。

(単位:千KL)

	今週 (4/17 ~ 4/23)	前週 (4/10 ~ 4/16)	前週比	
ガソリン	962	888	▲ 74	(8%)
ジェット燃料	75	84	▼ -9	(-11%)
灯油	217	223	▼ -6	(-3%)
軽油	592	584	▲ 8	(1%)
A重油	220	243	▼ -23	(-9%)
C重油	263	294	▼ -31	(-11%)
合計	2,329	2,316	▲ 13	(1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月23日時点の在庫はガソリン、灯油、C重油が積み増し、その他の油種で取り崩しとなり、前年に対してはガソリン、C重油が積み増し、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは184.6万kl、前週差0.1万kl増。前年に対しては12.9万kl多い。

灯油は120.4万kl、前週差3.7万kl増。前年に対しては2.7万kl少ない。

軽油は142.6万kl、前週差3.5万kl減。前年に対しては21.4万kl少ない。

A重油は75.6kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては2.4万kl少ない。

C重油は207.8万kl、前週差2.2万kl増。前年に対しては6.7万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (4/23)	前週 (4/16)	前週比	
ガソリン	1,846	1,845	▲ 1	(0%)
ジェット燃料	939	966	▼ -27	(-3%)
灯油	1,204	1,167	▲ 37	(3%)
軽油	1,426	1,461	▼ -35	(-2%)
A重油	756	768	▼ -12	(-2%)
C重油	2,078	2,056	▲ 22	(1%)
合計	8,249	8,263	▼ -14	(-0.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月19日から4月25日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円安で、原油コストは値上りと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン93円台、軽油36円台、灯油34～35円台でほぼ横ばいだった。海上スポット価格は、ガソリン93～94円台、軽油37～38円台、灯油34～36円台で、値上がりした灯油を除き横ばいである。また、先物価格はガソリン94～96円台、軽油35～37円台、灯油34～37円台だった。原油コスト値上がりの影響が製品スポット市場にも波及し、先物を中心に堅調が続いた。

EMGマーケティングは28日、30日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種3.0円引き上げる旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、原油コストの値上がりの影響を受け、比較的堅調に推移した。週間のガソリン販売量は、卸価格値上がりの影響が続き、前週より増加したものの90万kl台だった。

5月第1週(4月28日～5月4日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(4月19日～4月25日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油は0.1円、軽油は0.1円の値下がり、東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.1円の値下がり、灯油は0.9円、軽油は0.2円の値上がりだった。また先物価格は、ガソリンが1.3円、灯油が1.5円、軽油が1.6円の値上がりだった。原油コストは値上がり、スポット製品価格は先物から海上物が堅調を続けている。

5月第1週の大手元売の卸価格は、横ばいから2.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (4/19 ~ 4/25)	前週 (4/12 ~ 4/18)	前週比
スポット価格	レギュラー	39.5	39.2	▲ 0.3
	灯油	34.9	35.0	▼ -0.1
	軽油	36.5	36.6	▼ -0.1

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (4/19 ~ 4/25)	前週 (4/12 ~ 4/18)	前週比
先物価格	レギュラー	42.3	41.0	▲ 1.3
	灯油	36.2	34.7	▲ 1.5
	軽油	36.4	34.8	▲ 1.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/19～4/25実績値)		(単位: 円/ℓ)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.3	▲ 1.3	▲ 0.8
灯油	▼ -0.1	▲ 1.5	▲ 0.7
軽油	▼ -0.1	▲ 1.6	▲ 0.8
A重油	▼ -0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月25日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円値上がりの117.1円、軽油は0.1円値上がりの99.5円、灯油は横ばいの61.9円だった。ガソリンは7週連続の値上がり、軽油は6週連続の値上がり。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは35府県、横ばい2府県、値下がり10都道県だった。沖縄県を除く都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県(前週比0.4円高)の112.9円で、千葉県(同0.3円高)が113.0円で続いている。最高値は長崎県(同2.1円高)の126.8円だった。都道府県別で最も値上がりしたのは高知県(同6.6円高)で116.3円、最も

値下がりしたのは岡山県(同0.8円安)の114.3円だった。

原油コストは値上がり、卸価格も値上がりだった。製品スポット市況も比較的堅調で、次週の小売価格も、値上がりで見られる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)			直近高値	
		今週 (4/25)	前週 (4/18)	前週比		
小売価格	レギュラー	117.1	116.6	▲ 0.5	08/8/4	185.1
	灯油	61.9	61.9	→ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	99.5	99.4	▲ 0.1	08/8/4	167.4

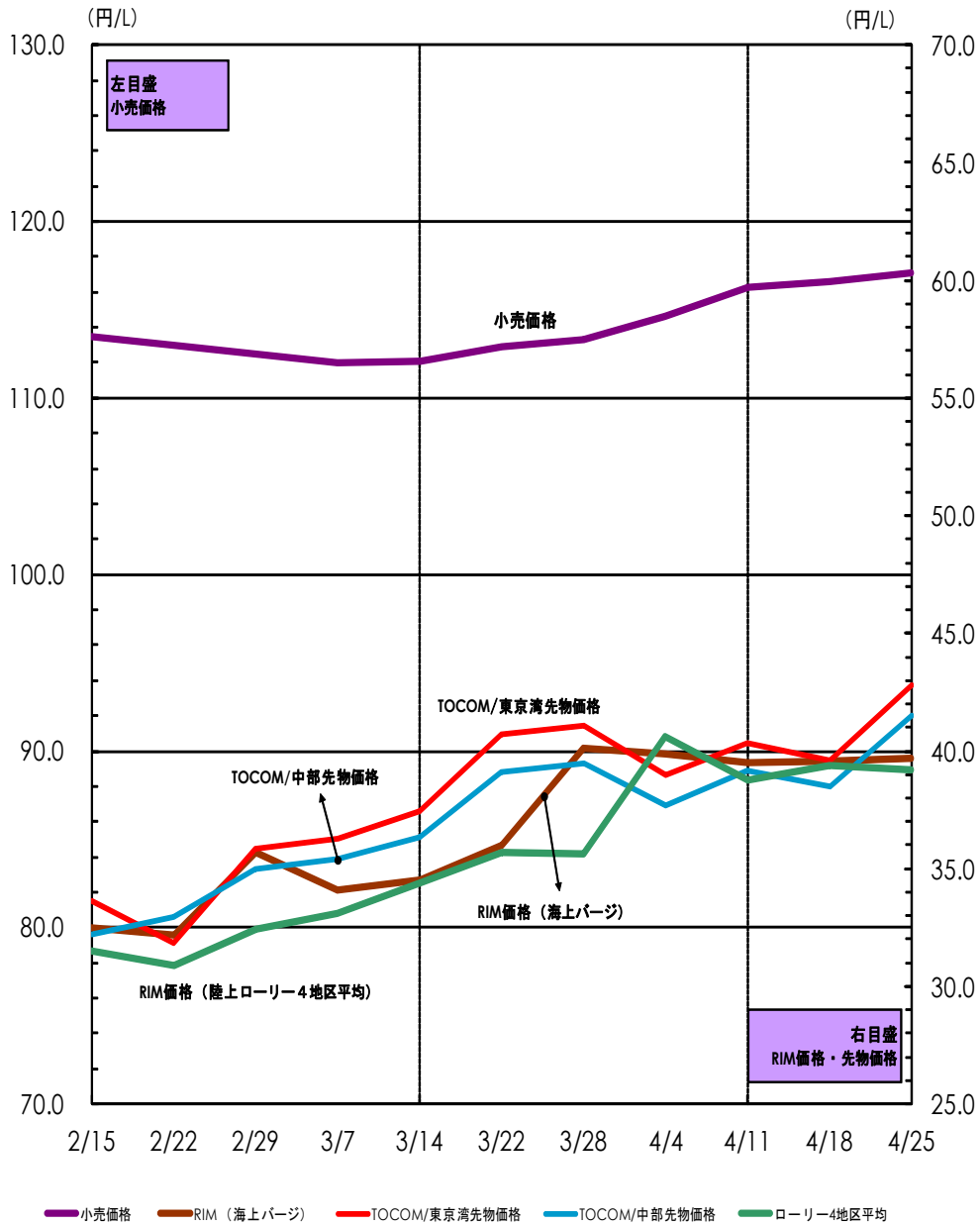
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/2/15 ~ 2016/4/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第6号)の公表は、5/13(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。